

## 海外インターンシップ報告書

氏名	日高弘喜 (ヒダカ コウキ)
所属	鹿児島大学法文学部法政策学科 3年
渡航先	香港

### 1. 参加目的

自分自身が海外に行ったことがないので、今回の機会に海外経験をし、異文化に触れ自分の視野や価値観を広げようと思った。また、自分の全く知らない土地を訪れ、一人で行動することで孤独に打ち勝つメンタルを身に着けたかった。

私は、現在 YOUTH SENSE COFFEE という団体に所属しており、カフェやコーヒーに興味があったので、海外でのコーヒーやカフェの現状を知りたかった。

さらに、海外で働く人と触れ合うことで就職活動の視野を広めたいと思った。

### 2. 大変だったこと・つらかったこと

何もわからない土地で、一人で行動するのは、精神的にきつかった。どこへ行けばいいのか、何をするのか等を考え動くことが大変だった。

また、香港は下水？のにおいがきつくマスクが手放せなかった。ゲストハウスのおいも独特で、特にトイレとシャワーが一体化おり、シャワーへの抵抗がすごかった。

物価が日本より高いところもあり、自身が持って行ったお金が無くなるという緊急事態に見舞われた。

### 3. 楽しかったこと

初の海外だったので、何が何かわからなかったが、冒険心にあふれた生活を過ごすことができ楽しい旅になった。また、異文化とのふれあいで自分の価値観とは違う人と触れ合えたことが楽しかった。

コミュニケーション面では、言語があまり通じない方々とお話をする際に、ジェスチャー等を用いてコミュニケーションを図ることが新鮮だった。また、香港在住の鹿児島県人会

の方と、ビジネスやプライベートのお話をする事ができてよい経験になった。  
文化面では、自身の夢であった「二胡」のコンサートに参加することができ、さらに一番前の席で見ることができたのでうれしかった。

#### 4. 達成できたこと

日本では得ることのできない、異文化とのコミュニケーションや体験ができたことで、自身の価値観や考え方がより深まった。  
見知らぬ土地に一人で赴き、計画を立てて行動することで自分のチャレンジ精神や計画力等が向上した。  
海外で働く方々のお話を伺ったことで、日本でのビジネスの価値観だけではなく、世界視野でのビジネスを考えることができるようになった。  
衛生的な懸念があり初日はシャワーを浴びることができなかったが、最終日前にして浴びることに成功した。

#### 5. 渡航前と渡航後の自分自身の変化

衛生的や文化的に異なる土地と訪れ、生活することで日本にいる時では得ることのない環境適応能力を得ることができた。環境適応能力とは、コミュニケーション力や衛生的な面においてである。  
さらに、とりあえずやってみようというチャレンジ精神が身についた。町の人に話しかけたり、行き当たりばったりで進んでみたりなど。そのようなチャレンジを行う際に、平常心を保つこともできるようになった。

#### 6. 現地での商品の反応

黒酢という商品を理解させることができず、飴として手渡すことしかできなかった。黒酢本体は、液体であり配ることが難しく渡すことができなかった。におい等で距離を感じるが多かった。

#### 7. 商品が現地で広まるためには、どうする必要があると思いますか。

調味料やドレッシングのように日常において食べやすい形にすべきだと思う。また、黒酢とは何か、どう健康にいいか等が分かりやすい資料等を提示すべきだと思う。

## 8. 海外インターンシップを通して、あなたにとって「働くとは？」何ですか。

人に価値を与え、自分の好きなことをすること。

## 9. 現地での活動を振り返って、感じたこと

ゲストハウスでの生活を通して、自分はお風呂とトイレが大切であるということに気付いた。だが一方で、どこでもぐっすり寝れるもんだなということも分かった。

外国に行くことは、言葉が通じないからという理由で遠ざけていたが意外と何とかなるんだなと思った。みんな何とか分かってあげよう、教えてあげようという姿勢が見えて人って優しいなと感じた。

香港は物価やインフラ等が発達しているイメージを抱いていなかったが、実際日本より発達している部分もあり驚いた。次からは、しっかりと事前調査してから行くべきだなと感じた。

そんなこんなで、やはり日本という国は最高であるということが分かった。

